

新規就農の条件や支援体制は？

※下川町で新たに就農する場合、町長から「新規就農予定者」として認定を受け、おおむね2年間、先輩の農業者などの下で経験を積むケースが大方です。その際は、次のふたつの制度を活用し、経済的な支援を受けることもできます。

①町の新規就農条例の適用を受け、条例に規定する貸付金(月額20万円、2年間程度)や補助金を受給し、「新規就農予定者」として農業技術などを習得する。その上で、「新規就農者」になり、5年間営農を継続すると貸付金の償還は免除。また、新規就農後5年間は条例に基づく各種補助金を受給できる。

②「新規就農予定者」として、地域おこし協力隊員(町の会計年度任用職員)になり、上記の支援を受ける

■①②とも、新規就農後5年間は条例に基づく各種補助金を受給できる

※農地を取得または借用するには、以下の要件を満たす必要があります

・取得する農地すべてを耕作し、効率的に利用する計画がある

・原則として年間150日以上、農作業に従事する

・取得後の総経営面積が50アール(約1,500坪)以上である

※その上で、農業委員会に農地の取得などを申請し、審査により、取得などの可否が決まります

※非農地(原野や雑種地など)を取得し、「農的な暮らし」や「半農半X」の生活を楽しむ道もあります

■「しもかわ財団」移住相談窓口の就農関連情報

<https://shimokawa-life.info/works/startup/>

■下川町産業振興課HPの新規就農情報

<https://www.town.shimokawa.hokkaido.jp/section/2016/05/post-68.html>

耕作放棄地の情報

・場所:紹介した農地の近隣に2か所あり、約20年前まで共同牧場として利用

・面積:合計約40ha(うち山林8haほど)

・地目:原野

・活用方法:森づくり、耕作放棄地の再生事業、牛や馬の放牧、大豆やソバなどの栽培ほか



北海道の原風景が残る土地で、新たな人生の開拓を

【発行元＆連絡先】

📍 098-1216 北海道上川郡下川町上名寄3432 滝川 康治
☎ 01655-4-4270
090-9085-9078
✉ tkoji@rose.ocn.ne.jp



北海道下川町に移住して
有機農業やアニマルウェルフェア畜産
を始めませんか



募集の主旨

北・北海道の内陸部に位置する、農林業が基幹産業の人口2,700ほどの下川町。今から70年余り前、私はこの町の市街地から7 kmほど離れた戦後開拓地に生まれました。両親は、水田や畑を作るかたわら、乳牛や農耕馬、鶏などを飼い、1990年代まで酪農を営んでいました。

地元の農業高校を卒業後は畑違いの道に進んだのですが、80年代前半に帰郷。ローカル紙の記者やフリーのライターを経て現在に至ります。家業を引き継ぎ酪農に従事した時期もありました。

若いころから有機農業に関心があり、この20年ほどは「アニマルウェルフェア（家畜福祉・AW）」に関する取材・普及活動にも関わってきました。化学合成された肥料や農業は使わず、遺伝子組み換え技術を利用しない有機農業と、動物の福祉と健康を大切にするAWとは、生命の連鎖や持続可能な農業を尊重していくところに共通性があります。

時代は変わりました。今、農林水産省は「みどりの食料システム戦略」で有機農業の推進を打ち出し、北海道庁も重要な農業形態の一つとして、有機農業（畜産）を積極的に推進しています。

そうした中で、自身の所有農地を有機農業やAW畜産を志す人たちに活用してほしい——と考えるに至った次第です。譲渡可能な農地の詳細は、別項をご覧ください。

全国の小さな自治体と同じく、下川町でも過疎や住民の高齢化が進んでいます。しかし、現状を逆手にとり、「北海道の原風景が残る土地で、新たな人生を開拓できる可能性がある」と、プラス思考で捉えることはできないでしょうか。そんな心意気を持ち、新たな挑戦を試みる人の移住・定住を歓迎します。

滝川康治
（北海道下川町）



譲渡可能な農地はどこにあるの？

下川町の市街地から7～8 kmの山あいには、有機農業やアニマルウェルフェアの農場として活用できる農地（11.4ha・写真を参照）があります
※現況は採草地。過去に畑作物の生産歴もあり、20数年にわたって無農薬・無化学肥料で管理してきました。
※旧牛舎は老朽化のため、家畜を飼養する場合は改修が必要です。
※就農希望者には、農地所有者や地域の人たち町や農業委員会など関係者が助言・支援します。



下川町って、どんなところ？

・東京23区とほぼ同じ面積があり、その9割を森林で占める。基幹産業は農林業、農業はフルーツトマトやホワイトアスパラアスパラガスなど施設野菜、畑作（ソバや小麦ほか）、酪農（10数戸）。住民の8割が半径1 kmほどの市街地で暮らし、その周辺に農村地帯が広がる。
・50歳を超えて飛び続ける、スキージャンプ競技の葛西紀明選手の出身地。引退した岡部孝信、伊東大貴、伊藤有希らの選手を輩出し、次世代の育成にも熱心。
・森づくりを通じた温室効果ガスの吸収削減、木質バイオエネルギーの活用などを推進中

こんな農業ができるのでは

- 小規模な放牧酪農・畜産＋加工＆販売
 - 大豆やソバ、カボチャ、ジャガイモなど野菜類の有機栽培
 - 平飼い養鶏＋上記作物の有機栽培
 - 羊や山羊など小動物の飼育＋ベリー類など小果樹の栽培・加工品づくり
- ※各地で実践する人たちから学び、知恵を絞って小さな農業を創造しませんか

こんな人にお勧めです

- ◎北海道の中山間地で有機農業や放牧畜産などを始めたい人
- ◎動物が大好きで、長く寄り添える人（※畜産を始めたい場合の必須条件）
- ◎「半農半X」も含め、自給的な暮らしをしたい人
- ◎多少貧しくてもプラス思考で人生を変えようとする人

